

## 目次

### 支部の活動

日本鉄鋼協会北海道支部の活動概況／大庭哲哉

### 支部の事業報告

支部講演会／石井邦宜

素材製造技術研究会／片山博

支部研究会「鋼材新素材研究会」／高橋平七郎

### 道の大学・研究所紹介

北大工学部に大学院重点化と鉄鋼研究／石井邦宜

室蘭工業大学における鉄鋼関係の研究／三澤俊平

### 道の企業紹介

新日本製鐵(株)室蘭製鐵所／特殊鋼生産のコンビナートを目指して「高炉・電炉の共存する新しい生産体制の確立」／倉持正昭

(株)日本製鋼所室蘭製作所／日本製鋼所における新製品、新素材の開発「水素吸蔵合金や生体材料の利用法について」／脇坂裕一

豊平製鋼(株)「北海道の発展に鉄で貢献する」／宮田克彦

北海鋼機(株)「豊かな未来づくり」／小原信二

北海鋼業(株)「鉄で地域に貢献、鉄と人を創り出す」／西脇建一

三友プラントサービス(株)「産業廃棄物処理におけるクローズドシステムの確立を目指して」／伊藤幸良

### 随想・留学記・旅行記等

とんだ海外出張印象記／松浦清隆

英国ケンブリッジ大学留学記／桃野正

機械系の材料学と材料選定／大島聡範

北海道における製鉄業の始まり／佐藤洋

日鋼室蘭付属諸施設見て歩き／竹之内朋夫

## 支部の活動

### 日本鉄鋼協会北海道支部の活動概況



支部長 大庭 哲哉  
(新日本製鐵(株)室蘭製鐵所副所長)

北海道支部は昨年6月に支部創立50周年を迎えた、会員数230名(学生会員を除く)のこぢんまりしたまとまりの良い支部です。北海道自体が全国の4%経済といわれ、特に、鉄鋼・金属加工業は2%以下のシェアに過ぎない中で、この規模は致し方ないレベルかもしれませんが、支部の活動水準は極めて活発です。

すなわち、当支部の活動は年2回の湯川記念講演会、講演大会及び年4回にわたる研究会が主なものであり、他支部の行事と特に異なるというわけではありませんが、その中味が極めて

充実しています。支部の講演大会は金属学会と共催で行われ、2日間にわたり60件もの研究成果が発表され、活発な、真剣な議論が展開されていますし、また、若手技術者、若手研究者の育成に力点をおいての素材製造研究会と鋼材新素材研究会の2つの研究会が計年4回開催されています。特に、後者はat homeで、ゼミのような雰囲気の中で、時には脱線しながらも自由闊達な議論が展開されており、教える方も、教わる方も、真剣かつフランクな意見のぶつけあいに時を忘れることも多く、非常に好評であると同時に、若手育成の絶好の場になっているようです。

このような北海道支部における活性化された活動の背景には、適度な規模で、互いに親密な関係になりやすいこと以外に、北大も室工大も鉄鋼の研究に関して全国でも有数の研究のメッカであることによるものと思います。従って、日本鉄鋼協会の中での活動を外れての、日常的な大学・企業間の研究受委託および共同研究の関係の強さも全国の水準をかなり越えるものと思います。北海道支部としては、この大学と企業との間の橋渡しを通じて、若手技術者・研究者の育成強化とますます研究の成果が大きくなるように努力して行きたいと思っています。

## 支部の事業報告

### 支部講演会(湯川記念講演を含む)

石井 邦宜  
(北海道大学工学部)

支部活動の目的は、身近にいる会員同士が相互に啓発し、そ

れによって各自の学術、技術の向上をはかることにあります。北海道の場合、中央から遠く刺激が拡散し易いため、コミュニティの場として各種講演会活動が一層大切になっています。

日本鉄鋼協会北海道支部と日本金属学会北海道支部では、会員の数が少なく専門が偏りやすいなどの害を防ぐため、合同して、研究発表会(支部講演大会)を行っています。支部講演大会は現在、夏冬の2回(7月・1月)札幌か室蘭で開催されます。また、日本鉄鋼協会北海道支部独自の講演会として現在、湯川記念講演を支部講演大会の機会を利用して行っています。